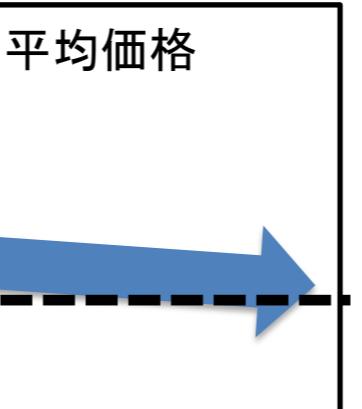
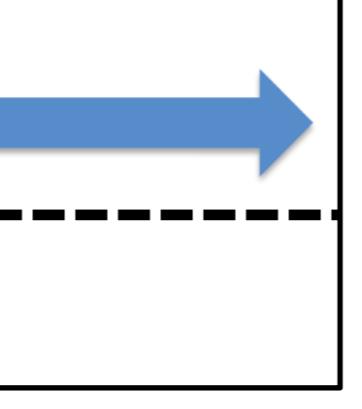
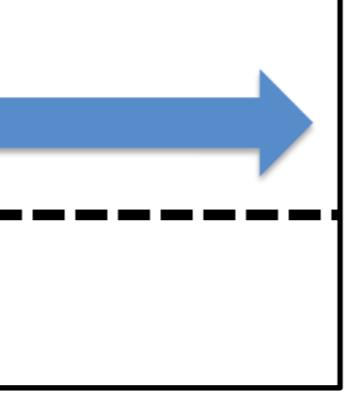
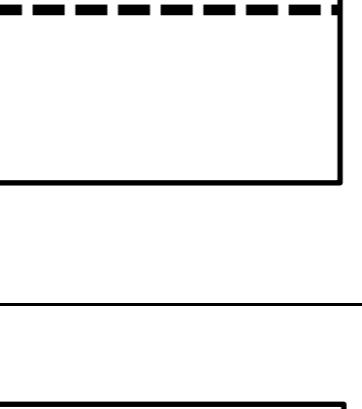
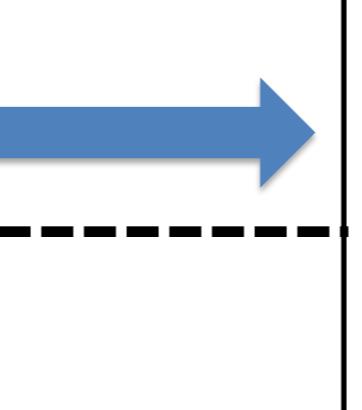
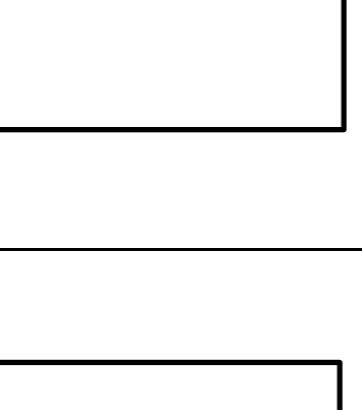
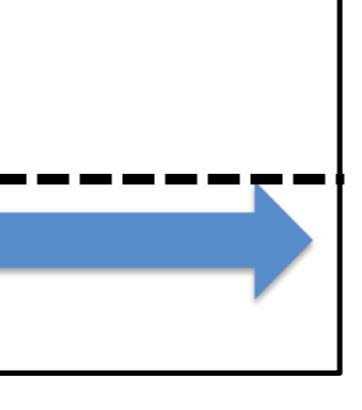
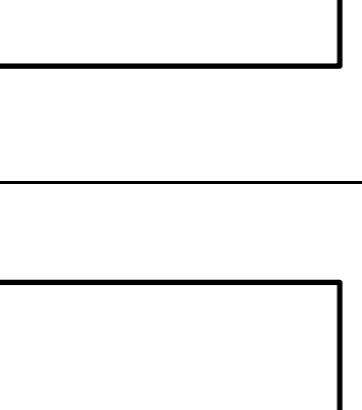
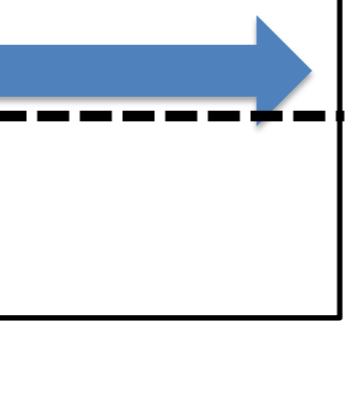
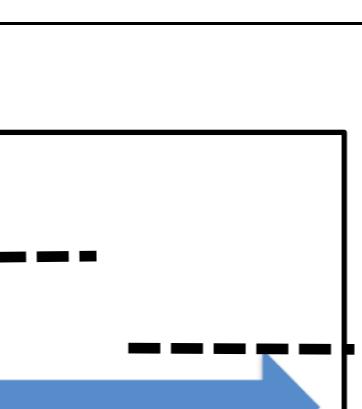
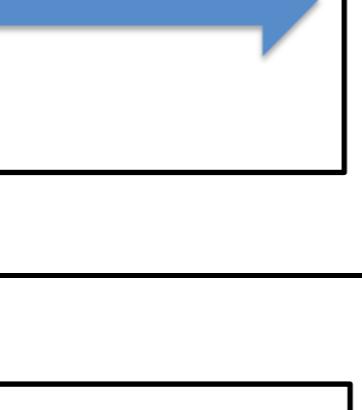
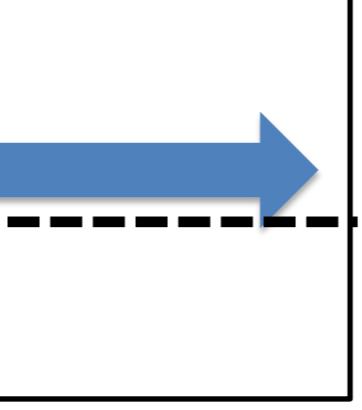
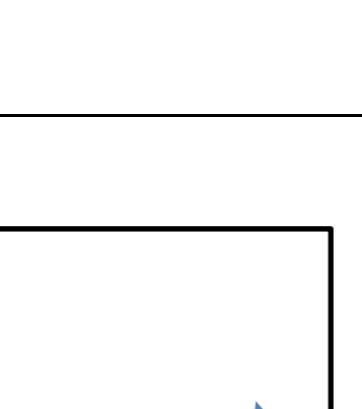
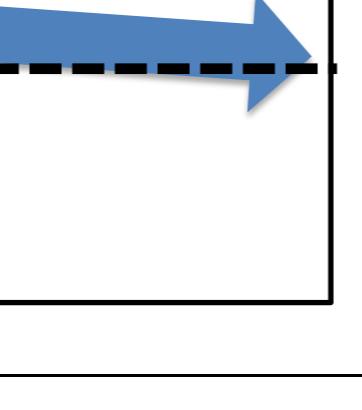
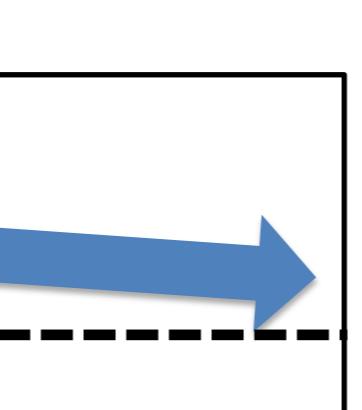
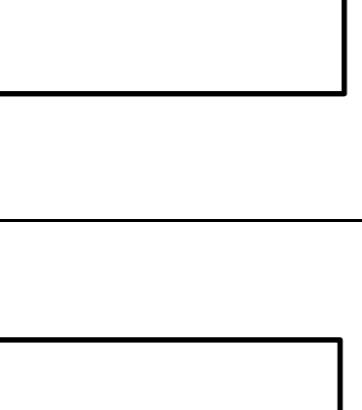
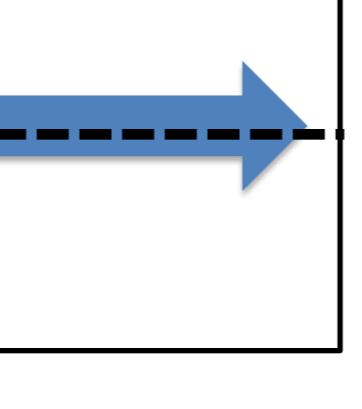
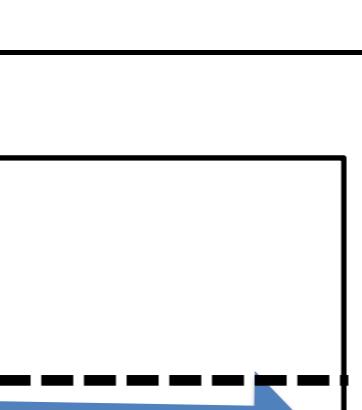
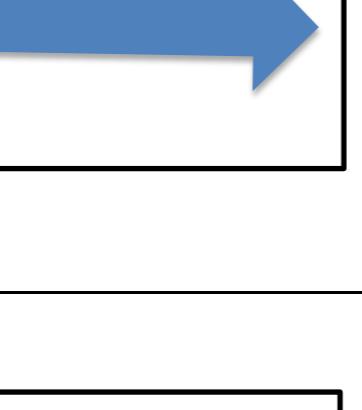
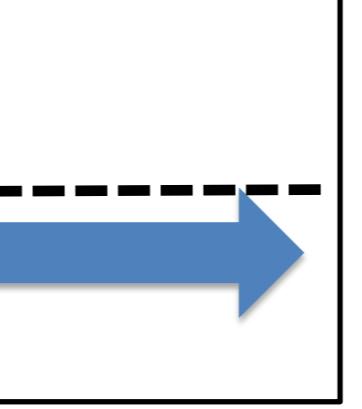
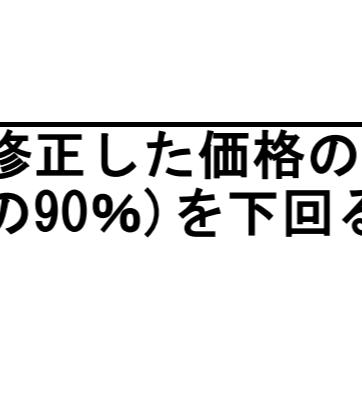


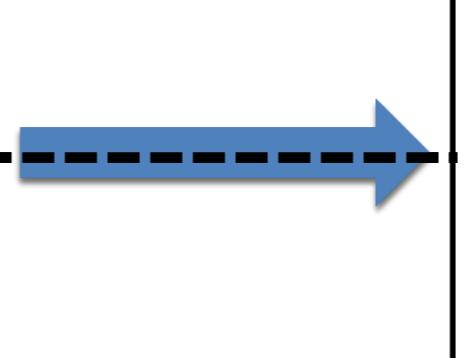
野菜の需給・価格動向レポート(平成29年5月29日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

| 種類 | 4月の価格情報 | | 5月 | | 5月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率 | 主産地 | ※レポートの読み方については、注意書きを参照してください | | | | |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--|---------------|------------------------------|--------------------|--|---|---|
| | (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格 | 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額 | (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格 | 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額 | | | 「図の見方」 | 見通しの価格水準 | | | |
| | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 上旬 | | | 平均価格 | 現時点の価格水準 | | | |
| 葉茎菜類 | キャベツ | 88.59 | 127 | 88.59 (143%) | 67.20 (98%) | 87 (98%) | 78 (116%) | ・10,553t (122%) | 千葉(44), 神奈川(28) |  | 千葉産は、端境期により平年よりやや少なめの出荷となっているものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、3月下旬の干ばつ傾向により、平年より少なめとなっているものの、4月の気温高により回復しつつあることから、現在、平年より少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 |
| | | 91.02 | 121 | 91.02 (133%) | 81.66 (114%) | 104 (98%) | 80 (98%) | ・3,147t (133%) | 愛知(43), 兵庫(15), 茨城(14), 福岡(13) |  | 千葉産及び神奈川産の出荷量が平均並みに回復すると見込まれることから、平均をやや上回っている価格は、平均並みに推移する見込み。 |
| | たまねぎ | 95.80 | 118 | 78.12 (123%) | 91 (116%) | 90 (115%) | 90 (115%) | ・7,976t (122%) | 佐賀(53), 兵庫(16) |  | 佐賀産は、生育は概ね順調であるものの、作付面積の減少等により、引き続き平年より少なめの見込み。兵庫産は、早生の出荷がピークを迎えており、収穫が遅れていることから、今後も引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 |
| | | 95.80 | 119 | 78.12 (124%) | 86 (110%) | 88 (113%) | 88 (113%) | ・2,803t (115%) | 兵庫(49), 北海道(25), 佐賀(18) |  | 佐賀産及び兵庫産の出荷が平均より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。 |
| | ねぎ(関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) | 277.31 | 306 | 277.31 (110%) | 350 (126%) | 378 (136%) | 378 (136%) | ・1,469t (125%) | 茨城(38), 千葉(29) |  | 茨城産は、生育は順調で、初夏ねぎが順調な出荷であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調で、春ねぎの作付面積の増加もあり、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、夏ねぎへの切り替え時期へ移行していくことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 334.73 | 345 | 334.73 (103%) | 324 (97%) | 309 (92%) | 309 (92%) | ・242t (138%) | 徳島(25), 三重(19), 奈良(17), 香川(10), 大阪(9), 高知(9) |  | 茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。 |
| | はくさい | 67.05 | 175 (261%) | 67.05 (121%) | 81 (87%) | 58 (87%) | 58 (87%) | ・2,732t (156%) | 茨城(93) |  | 茨城産は、出荷のピークを過ぎ、6月上旬には終盤を迎えるものの、生育は順調であることから、今後も平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 74.06 | 161 (217%) | 74.06 (143%) | 106 (101%) | 75 (101%) | 75 (101%) | ・651t (142%) | 茨城(38), 長野(18), 群馬(11), 岐阜(10), 熊本(8) |  | 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるが、需要期を過ぎていることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。 |
| 果菜類 | ほうれんそう | 376.10 | 486 | 376.10 (129%) | 461 (123%) | 387 (103%) | 387 (103%) | ・845t (137%) | 群馬(36), 茨城(32) |  | 群馬産は、気温高により一部ほ場で病害虫が発生しているものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、5月に入ってからの曇天や気温の上昇により、品質の低下が懸念されるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 416.73 | 440 | 416.73 (106%) | 530 (127%) | 456 (109%) | 456 (109%) | ・378t (117%) | 岐阜(68), 群馬(13) |  | 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均をやや上回っている価格は、引き続き平均をやや上回って推移する見込み。 |
| | レタス(結球) | 156.23 | 192 | 156.23 (123%) | 142 (91%) | 114 (73%) | 114 (73%) | ・4,508t (110%) | 茨城(36), 長野(33), 群馬(20) |  | 茨城産は、5月下旬で概ね切上がりの見込み。長野産は、4月上旬以降の気温高により、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、4月下旬の低温により、現在平年よりやや少なめの出荷となっており、気温高によりとろけ等がでているほ場も見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 |
| | | 165.00 | 186 | 165.00 (113%) | 158 (96%) | 122 (74%) | 122 (74%) | ・1,816t (117%) | 長野(69), 兵庫(17) |  | 群馬産が平年よりやや少なめと見込まれるものの、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。 |
| | きゅうり | 266.63 | 253 | 189.84 (95%) | 225 (119%) | 209 (110%) | 209 (110%) | ・5,866t (104%) | 埼玉(29), 群馬(22), 茨城(13), 千葉(10) |  | 埼玉産は、天候に恵まれ、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は概ね順調で、着果肥大とともに良好であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ作柄品質とともに順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、端境期により、平年より少なめの出荷となっているものの、夏作の生育が順調なことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 254.91 | 247 | 186.08 (97%) | 229 (123%) | 199 (107%) | 199 (107%) | ・1,823t (108%) | 宮崎(42), 高知(15), 徳島(11), 群馬(8), 愛媛(8) |  | 群馬産、埼玉産、茨城産及び千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。 |
| | トマト(大玉) | 356.77 | 327 | 230.55 (92%) | 241 (105%) | 245 (106%) | 245 (106%) | ・6,213t (107%) | 栃木(24), 熊本(22), 愛知(10), 千葉(10) |  | 栃木産は、生育及び着果は概ね順調で肥大も良好であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。熊本産は、4月の低温の影響から、平年より少なめの出荷となっているものの、生育及び着果は悪くないことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。愛知産は、4月の曇天、降雨の影響により、現在平年より少なめの出荷となっているものの、気温の上昇により生育及び着果が回復すると見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、無加温作が盛期に入り、生育、作柄ともに良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 337.87 | 328 | 239.96 (97%) | 250 (104%) | 256 (107%) | 256 (107%) | ・2,058t (99%) | 熊本(67), 福岡(8) |  | 熊本産の出荷が平均よりやや少なめと見込まれるものの、栃木産、愛知産及び千葉産の出荷が平均より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平均をやや上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。 |
| | なす | 347.77 | 389 | 311.92 (112%) | 398 (128%) | 379 (122%) | 379 (122%) | ・2,092t (112%) | 高知(43), 福岡(19), 群馬(11) |  | 高知産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、現在平年より多めの出荷となっており、今後も引き続き平年より多めの出荷の見込み。福岡産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、生育は順調で、半促成作の出荷が順調であることに加え、6月には夏秋作の出荷も始まるところから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 |
| | | 330.95 | 370 | 271.01 (112%) | 377 (139%) | 356 (131%) | 356 (131%) | ・898t (108%) | 高知(33), 大阪(18), 熊本(17), 福岡(17) |  | 福岡産の出荷が平均並みと見込まれるもの、高知産及び群馬産の出荷が平均より多めと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。 |
| 根菜類 | ピーマン | 339.20 | 407 | 339.20 (120%) | 412 (121%) | 356 (105%) | 356 (105%) | ・1,554t (108%) | 茨城(72) |  | 茨城産は、一部ほ場で病害が散見されるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 311.41 | 341 | 311.41 (110%) | 365 (117%) | 296 (95%) | 296 (95%) | ・653t (115%) | 宮崎(39), 高知(21), 茨城(17) |  | 茨城産の出荷が引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。 |
| | だいこん | 86.59 | 99 | 86.59 (114%) | 100 (115%) | 83 (96%) | 83 (96%) | ・4,176t (120%) | 千葉(75) |  | 千葉産は、生育は前進傾向で肥大も良いことから、6月には終期に向かうものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。 |
| | | 89.53 | 85 | 89.53 (95%) | 80 (89%) | 73 (82%) | 73 (82%) | ・2,127t (129%) | 長崎(32), 鹿児島(19), 群馬(11), 和歌山(8) |  | 千葉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、需要期を過ぎていることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。 |
| | にんじん | 156.99 | 166 | 156.99 (106%) | 134 (85%) | 137 (87%) | 137 (87%) | ・4,585t (114%) | 徳島(66), 千葉(21) |  | 徳島産は、天候に恵まれ気温も高めに推移し、生育は順調であることから、6月上旬で概ね切上がりとなるものの、今後も引き続き平年より多めの出荷となる見込み。千葉産は、早出し産地及び後続産地とも生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷量の見込み。 |
| | | 148.36 | 167 | 148.36 (113%) | 120 (81%) | 116 (78%) | 116 (78%) | ・2,373t (123%) | 徳島(55), 長崎(30), 宮崎(9) | | 徳島産及び千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。 |

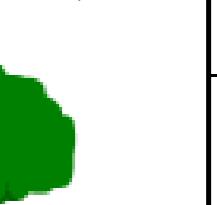
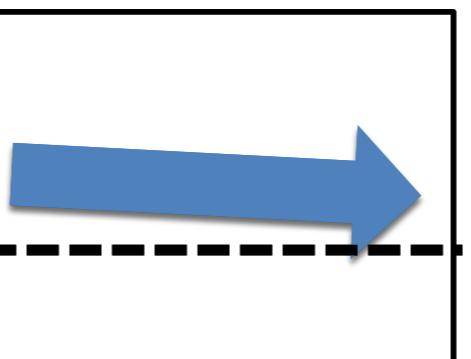
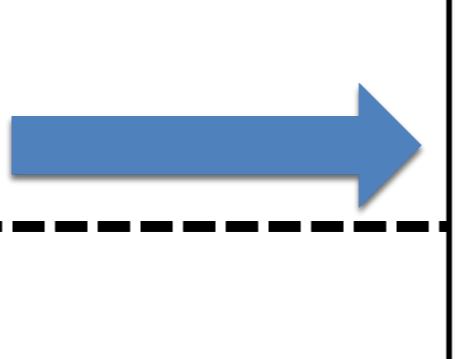
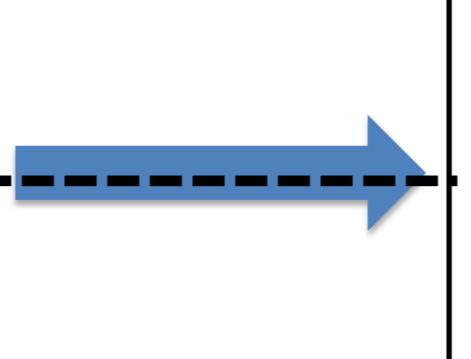
注: 1 平均価格は、過去6年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 上段別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。<

1 主要野菜の生産出荷状況

| 種類 | 4月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格 | 5月 | | 5月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量(千t)内は、本年と過去3カ年平均値との比率 | 主産地 | 生育及び価格の6月上旬までの見通し | | 「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。 | | |
|-----|--|---|--|---|---|--|-----------------------------|--|--|--|
| | | 指定野菜の関東・近畿ブロック専別平均販売価額 | | | | 5月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格 | | | | |
| | | 下旬 | 上旬 | 中旬 | | | | | | |
| いも類 | 138.39  | 207 (150%) | 138.39 (121%) | 168 (108%) | 150 (108%) | 4,862t (119%) | 長崎 (55), 鹿児島 (23) |  <p>長崎産は、4月上旬の降雨により収穫に遅れがみられたものの、現在遅れも解消され、本格出荷を迎える見込み。鹿児島産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長崎産及び鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平年並みで推移する見込み。</p> | | |
| | 144.98 (150%) | 217 (105%) | 144.98 (100%) | 152 (100%) | 145 (100%) | 1,865t (120%) | 長崎 (59), 鹿児島 (19), 北海道 (15) | | | |

注：
1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 別々平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段は5月16日～31日までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

| 種類 | 4月の価格情報 (参考) 過去5カ年 平均価格 | 5月 | | 5月中旬の東京都及び大阪市場の入荷量(千t)内は、本年と過去3カ年平均値との比率 | 主産地 | 生育及び価格の6月上旬までの見通し | | 「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。 | | |
|------|--|---|--|--|--|---|--|--|---|--|
| | | 東京都・大阪市場の旬別価格 | | | | 5月 (参考) 過去5カ年 平均価格 | | | | |
| | | 下旬 | 上旬 | 中旬 | | | | | | |
| 洋菜類 | ブロッコリー  | 425.81 (105%) | 445 (114%) | 344.20 (93%) | 393 (145%) | 364 (93%) | 916t (145%) | 埼玉 (29), 香川 (14), 愛知 (13) |  <p>埼玉産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、干ばつ傾向で、生育が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷は、引き続き少なめの見込み。愛知産は、前進出荷の影響により、平年より少なめの出荷となっているが、後作の出荷が増加していくことから、今後は平年並みの出荷の見込み。</p> | |
| | | 447.65 (106%) | 474 (107%) | 363.21 (94%) | 390 (112%) | 368 (94%) | 210t (112%) | 徳島 (30), 鳥取 (19), 香川 (19) | | |
| 葉茎菜類 | アスパラガス  | 1277.37 (130%) | 1659 (147%) | 1180.07 (87%) | 1731 (87%) | 1498 (87%) | 226t (88%) | 福島 (22), 栃木 (14), 秋田 (12), 北海道 (10), 長野 (10) |  <p>福島産は、出荷のピークを迎えており、生育期の低温の影響から引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、作付面積の増加に加え、前進気味となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。秋田産は、低温による生育遅れで、細物が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産及び長野産は、低温による露地物の生育が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</p> | |
| | | 1267.33 (138%) | 1751 (139%) | 1331.67 (88%) | 1846 (101%) | 1633 (88%) | 45t (101%) | タイ (16), 長野 (16), 岡山 (15), 佐賀 (11), 福岡 (10) | | |
| こまつな | こまつな  | 311.05 (81%) | 252 (96%) | 215.24 (83%) | 206 (83%) | 171 (83%) | 407t (128%) | 茨城 (44), 埼玉 (28), 東京 (12) |  <p>茨城産及び埼玉産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</p> | |
| | | 274.87 (93%) | 257 (113%) | 178.27 (61%) | 201 (61%) | 122 (61%) | 197t (144%) | 福岡 (77), 茨城 (7) | | |

注：
1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 別々価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 別々価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 生産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック ー えだまめの需給動向について ー

今回は、いよいよ旬を迎え気温の上昇とともに流通量が増加するえだまめの需給動向等について紹介する。

えだまめは、大豆を未成熟の青いうちに収穫したもので、枝つきのままゆで食用にしたことから、この名がついたとも言われている。また、かつては田植えの終わったあぜ道などに栽培されていたことから、「あせまめ」とも呼ばれていた。えだまめとして食用するようになった時期は不明だが、江戸時代の中期の文献に、「大豆を莢豆の柔らかいうちから食べた」と「夏にえだまめ売りの姿が町でみられた」などの内容が書かれた文が記述されていることから、その頃にはえだまめを食べる習慣が日本にはあったと考えられる。

作付面積の推移をみると、平成21年の1万3300ヘクタールから27年の1万2500ヘクタールと微減傾向となっているが、近年の出荷量は5万トン前後で推移している。出荷量の1位は千葉県6070トン、2位は北海道5150、3位は山形県4830トンとなっており、この3県で全体の33%をしめている。最近では山形の「だだちゃ豆（茶まめ）」、丹波の「黒豆」など、地域特産のえだまめも流通している。国産えだまめの流通量は、7月から8月がピークとなり、流通量の増加とともに市場価格が下がり、最需要期では1キログラム当り700～800円程度で取引されている。これら需要期以外でも栽培栽培等により国産えだまめの供給はみられるが、生産が安定しないことから最需要期の2倍程度の価格で取引されている。

他方、国産えだまめの供給が困難となる11月から翌4月にかけては、冷凍えだまめが流通の大宗を占めている。

その輸入量の推移をみると、平成18年のポジティブリストの導入の際、輸入量が減少したものの、21年からは増加傾向となり、23年以降は、導入前の7万トンに戻っている。27年以降は、前年比103.8%、102.5%と増加傾向にある。また、国別の内訳をみると、中国の輸入量は、ポジティブリストの導入以前は、全体の約45%を占めていたが、最近では26%と減少し、代わって、台湾とタイの輸入量が増加し、26年以降は、台湾に続き、タイが中国を抜いて、第2位となっている。

えだまめは、国産と年々で輸入している冷凍ものによって供給されており、最近では、北海道十勝管内において、国産の冷凍えだまめの生産も行われており、品質の良さから安価な外国産との差別化を図り、微量ではあるが海外に輸出されている。

えだまめの栄養価は、大豆が「畝の肉」と呼ばれるほど栄養価が高いことから、たんぱく質のほか、カルシウム、ビタミン類、食物繊維、鉄、カリウム等の栄養成分を豊富に含んでいる。特に葉酸が多く含まれ、体の成長、貧血の予防、生活習慣病等に効果があるほか、えだまめはビタミンB1やB2を多く含んでいるため、夏バテ防止や疲労回復にも効果的といえる。

なお、えだまめは、ゆでた後に、すぐに冷ますと、余熱による茹で過ぎと黒っぽくなるのを防ぐことができる。

図1 えだまめの作付面積と出荷量の推移

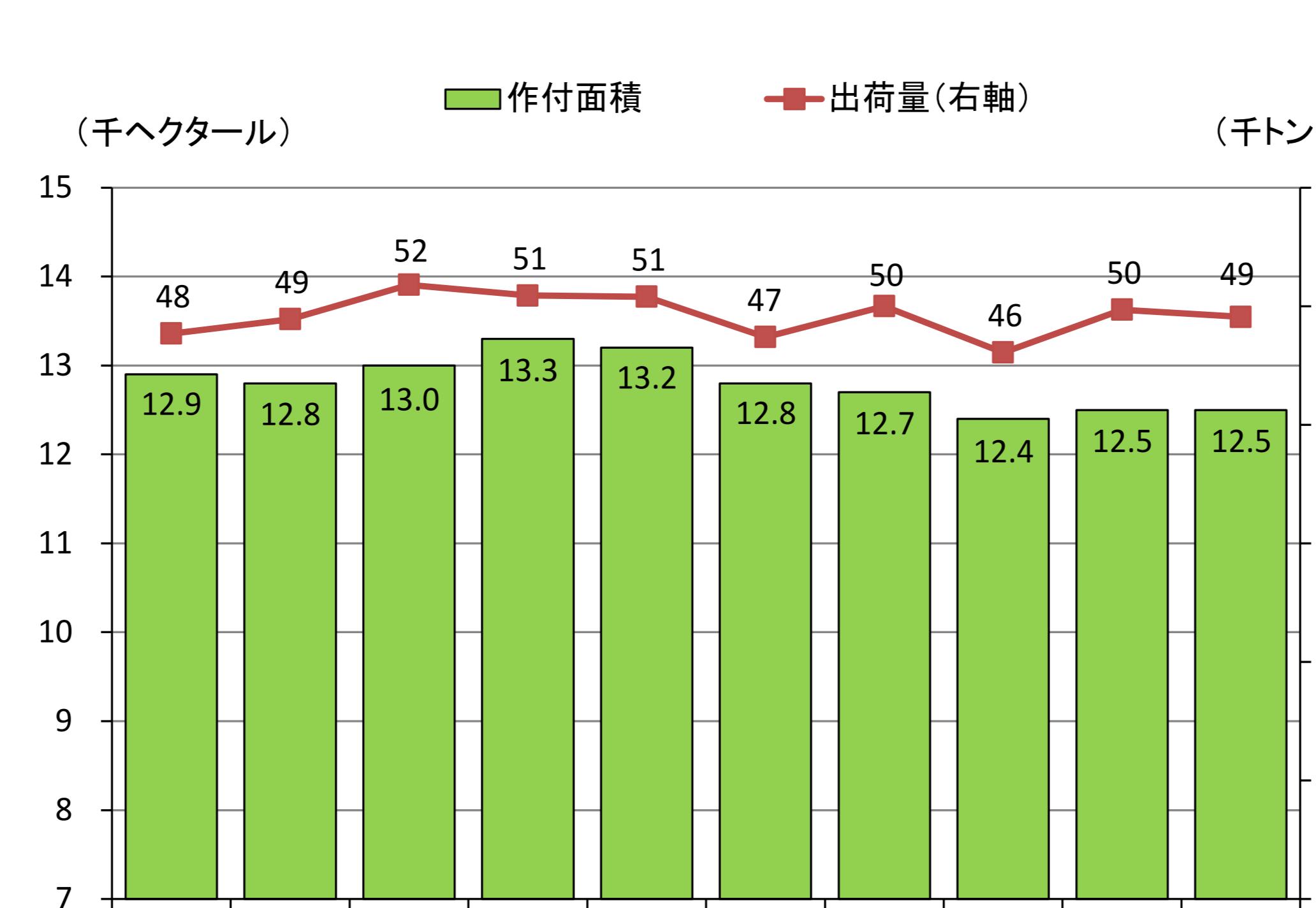


図2 えだまめの県別作付面積と出荷量(平成27年)

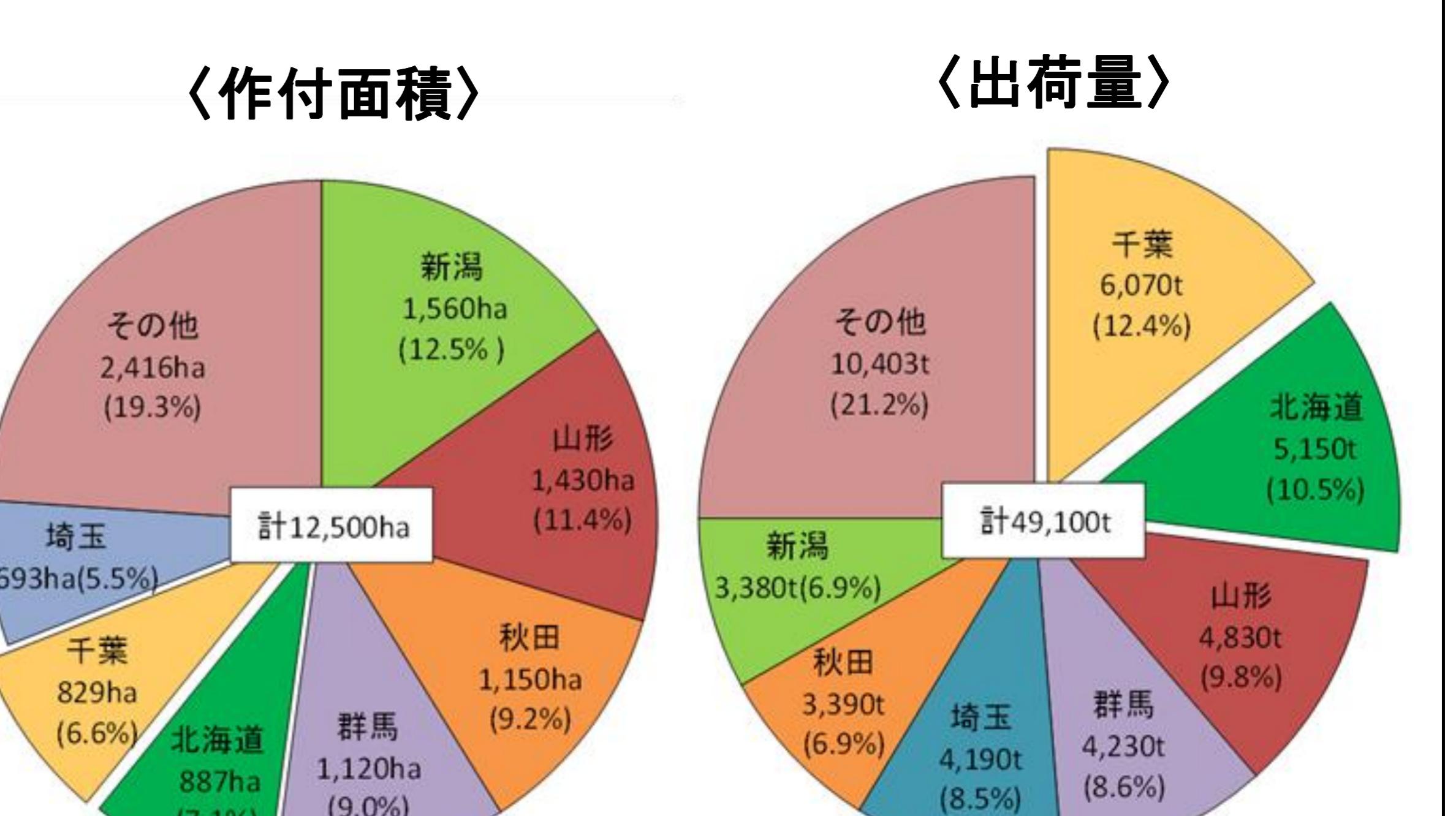


図3 東京都中央卸売市場における月別入荷量と平均価格の推移(平成28年)

